

1 単元名 サークルハンドボール

2 運動の一般的特性

サークルハンドボールは、パスをつないでボールを運び、サークルの中に走り込んだ味方のゴールマンにシュートして相手チームと得点を競い合うことを楽しむ運動である。

3 子どもの実態と単元についての指導観
省略

4 仮説と学習の手立て

(1) 市教研体育部会の研究仮説

子どもが健康な生活を送ったり運動に意欲的に取り組んだりするために様々な学習の手立てを工夫すればよいだろう。

(2) 学習の手立て

<手立てI>

運動の特性を十分に検討した上で、子どもの願いを大切に学習の道すじを工夫すればよいだろう。

① 易しい段階から発展する段階へ（見る・聞く⇔やってみる ⇔ひろげる・ふかめる）

本単元では、ねらい①を「簡単なルールでゲームを楽しむ」、ねらい②を「チームで簡単な攻め方を選びながらゲームを楽しむ」とするステージ型の道すじを考えているが、ねらい①の時間を5時間と比較的長い時間を設定する。事前のアンケートによると、子どもたちはシュート・パス・キャッチといった技能面の向上を願っている。そこで、ねらい①で簡単なルールでゲームを楽しむ中で、個々の動きの財産を多く増やし時間を十分に保障していく。ねらい②では、ねらい①で身に付いた動きを生かし、チームで簡単な攻め方を知り、攻め方を選びながらゲームを楽しんでいく。そうすることで、学習の進め方やサークルハンドボールの行い方をきちんと理解し、技能を伸ばすことはもちろん、考えながら活動する学び方についても身に付けられると考える。

② 平山センスアップ運動（主運動にかかわる動きや感覚を養う活動を取り入れて）

・キャッチアンドパス（1対1） ・ぐるぐるパス回し（スクエアパス）

ボールを投げたり捕ったりすることに慣れて、よりゲームを楽しめるようにするために、毎時間はじめに1対1のキャッチボールやスクエアパスをする時間を多く取り入れていく。

キャッチボールでは、利き手と逆の足を一步前に踏み出してパスをしたり、両手でボールをはさむのではなく包み込むようにキャッチしたりすることを声かけしていく。慣れてきたら、キャッチからパスするまでの動作をリズムカルにできるよう声かけしていく。

スクエアパスでは、ボールが飛んでくる方向と違う方向へ投げる感覚を養っていく。ボールをキャッチしたら素早く体の向きを変えて味方にパスをし、もらう側は「ハイ！」とボールを要求できるようにしていく。

<手立てⅡ>

一人一人の能力に応じた学習を進めるための手立てを工夫すればよいだろう。

① 動きのポイント及びゲームルールや用具・場の工夫

子ども一人一人の動きや感覚を養うために、動きのポイントを明らかにし、子どもの状況に応じた指導をしていく。そこで、下記のように動きのポイントを整理した。

【各時間に養いたい「動きや感覚」】 ○動きや感覚 ・動きのポイント

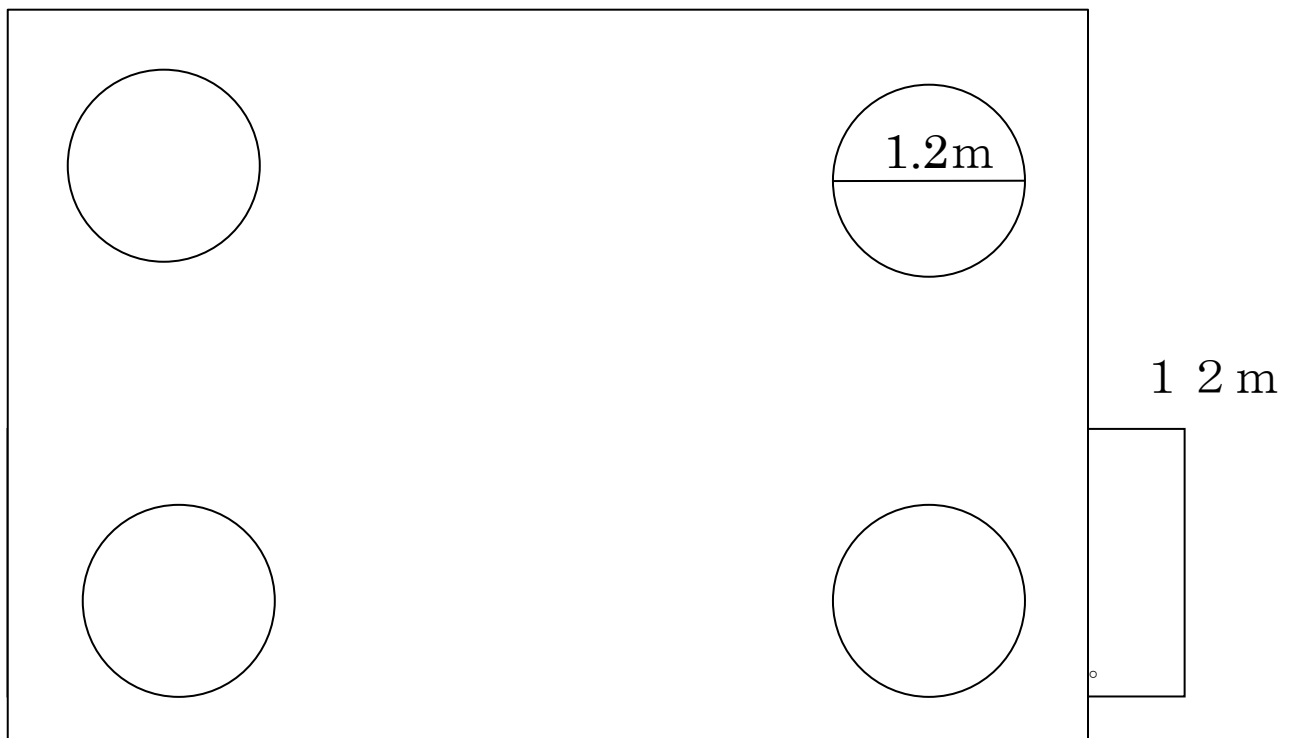
2～7時間目	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的なボール操作（シュート・パス・キャッチ） <ul style="list-style-type: none"> ・ボールを持ったら、相手サークルに素早く体向け、味方の動きを見る。 ・「ハイ！」とボールを要求しながら、包み込むようにキャッチする。 ※平山センスアップ運動（キャッチアンドパス・ぐるぐるパス回し） ○ボールをもたないときの動き <ul style="list-style-type: none"> ・パスを出したら、ボールをもらえるスペースに走り込む。 ・タイミングをはかってサークルの中に走り込む。 ・味方の動きを見ながら、互いに声かけ合う。 ※サークルハンドボール
--------	--

【ゲームルール】

1～7時間目	<p><ルール></p> <ul style="list-style-type: none"> ○チーム構成は、4人チームを5チームずつ、3人チームを1チームとする。 ○ゲームは3対3で行う。 ○ゲーム時間は前後半2分ずつとし、得点後はエンドラインから再開する。 ○相手サークルの中で、キャッチに成功すると1点。 ○サークルには誰でも入ることができる。相手チームは入ることができない。 ○ドリブルはなし。 ※ルールについては子どもの実態に応じて変えていく。
--------	---

【用具・場】

18m



<手立てⅢ>

一人一人の子どもが意欲的に運動に取り組む評価の工夫をすればよいだろう。

① のびるための具体的な目標設定と一人一人を生かす指導

「単元（授業）でめざす子ども像」を「体育学習全体でめざす子ども像」から具体化して明確に目標をもつことで、子どもの活動に対して、一人一人に適切な指導及び評価活動を行うことができると考えた。

「めざす子ども像」と「子どもの状況に応じた指導」（下線の内容が実現すれば十分満足できる状況）

中学年のめざす子ども像	単元レベルでの具体目標	子どもの状況に応じた指導 上段：おおむね満足できる状況の子へ 下段：努力を要する状況の子へ
多様な運動感覚な動きの体験をもとに、各種の基本的な技能が向上している。 (技能)	投げる・捕るなどの基本的な技能が身に付いている。ボールをもらえる場所に走り込むことができる。	ボールを持ったら、素早くサークルに体を向け、味方の動きをよく見ながらシュートやパスをするよう助言する。味方の動きをよく見ながら「ハイ！」とボールを要求し、体の正面でキャッチするよう助言する。パスを出したら、素早くボールをもらえる場所に走り込むよう助言する。 <u>タイミングよく相手サークルの中に走り込むよう助言する。</u> パスを出したら、相手のいない場所に走り込み、「ハイ！」とボールを要求しよう。
めあてをもって取り組み、振り返りをしている。資料を活用、選択しようとする。(思考・判断)	得点につながる動きを考えたり、簡単な攻め方を知り、チームで攻め方を選んだりすることができる。	「友達に、得点につながる動きのポイントを教えてあげよう」と助言する。「チームで攻め方を選ぶ時に進んで自分の考えを述べてみよう」と助言する。 <u>素早くボールをもらえる場所に走り込む動きを紹介し、その動きを教師が示す。擬態語を用いて一緒に動いたりしながら動きをイメージさせる。</u>

※「各学年のめざす子ども像」とは、本校の学校教育目標「心豊かで 自ら伸びようと 努力する子ども」を体育科学習において具現化するために設定されたものである。

5 学習のねらい

- ◎パスをつないでボールを運び、サークルの中に走り込んだ味方のゴールマンにシュートして相手チームと得点の競い合うことを楽しむ。
- 規則を守り、進んでゲームに取り組みながら、素直に勝敗を認めることができる。
- 得点につながる動き方を考えたり、簡単な攻め方を知り、チームで攻め方を選んだりしている。
- 基本的なボール操作やボールを持たないときの動きができる。

6 評価規準（おおむね満足できる状況）

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
①ゲームに進んで取り組もうとしている。 ②規則を守り、友達と励まし合っ て練習やゲームをしよ うとしたり、勝敗の結果を受け入れよ うとしたりしている。 ③友達と協力し、用具の準備や片 付けようとしている。 ④ゲームを行う場や用具の使い方 などの安全を確かめようとして いる。	①得点につながる動きを考えて いる。 ②簡単な攻め方を知り、チーム で攻め方を選んでいる。	①易しいゲームにおいて、基本 的なボール操作ができる。 ②ボールを持たないときの動 きができる。

	1	2	3
0	<p>1 平山センスアップ運動をする。 ・キャッチアンドパス ・ぐるぐるパス回し など ☆ボールをもらうときは、両手で包み込むようにキャッチするよう助言する。</p>	<p>2 ねらい① 簡単なルールでゲームを楽しむ。</p>	<p>3 ゲームを3試合行う。 ゲーム時間は4分とし、3チーム総当たりで行う。</p>
45	<p>オリエンテーション 学習のねらいと道すじを理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <p>3 ルールを確認し、ゲームを2試合行う。</p> <p>はじめのルール ・ドリブルはなし。 ・体がぶつからないよう気を付ける。 ・サークルの中で、キャッチに成功すれば1点。 ・得点が入ったらエンドラインから再開する。 ・サークルの中に入ってパスを待っていないといけない。</p> <p>関② ◇仲間がゴールを決めたときには、<u>気持ちよく声かけしてあげよう。</u> ◆チームの友達がミスしても、責めないで励まそう。</p> <p>関④ ◇<u>友達と声をかけ合いながら、安全に気を付けて準備を進めよう。</u> ◆用具の置き場所は、ここでいいかな。</p> <p>☆規則や約束を守って楽しくゲームをしたり、 勝敗を素直に認めたりするよう助言する。</p>	<p>養う動きや感覚</p> <p>○基本的なボール操作 ボールを持ったら、相手サークルに体を向け、味方の動きを見ながらシュートやパスをする。 「ハイ！」とボールを要求し、両手で包み込むようにキャッチする。</p> <p>関③ ◇<u>進んで、用具の準備や片付けをしよう。</u> ◆友だちの手伝いをしてあげよう。</p> <p>☆全員で協力して、準備や片付けをするよう助言する。</p> <p>関① ◇<u>何度も何度もゴールをねらおう。</u> ◆失敗してもいいからゴールをねらってみよう。</p> <p>技① ◇ボールを持ったら、<u>素早くサークルに体を向け、味方の動きをよく見ながらシュートやパスをしよう。</u> ◆ボールをよく見てキャッチしよう。</p> <p>☆体の正面でボールを受け、キャッチできなくても、前に落としてすぐに拾うよう助言する。</p>	
関	<p>【関②】ルールを守って、友達と仲よく楽しもうとしている。 【関④】場や用具の安全に気を付けようとしている。</p>	<p>【関③】友達と協力しながら用具の準備や片付けをしようとする。(2／7) 【関①】ゲームに進んで取り組もうとしている。(2／7)</p>	
思			
技		<p>【技①】ボールを持ったら、相手サークルに体を向け、味方の動きを見ながらシュートやパスができる。 「ハイ！」とボールを要求しながら、体の正面でキャッチすることができる。(3／7)</p>	

は重点評価にかかわる指導と評価

◇:十分満足できる状況へと導く助言(下線は十分満足できる状況)◆:努力を要する状況の子への助言

4	⑤	6	7
---	---	---	---

☆パスを受けたら、素早く体の向きを変えて友達にパスするよう助言する。

3 ゲームを3試合行う。

養う動きや感覚

- ボールを持たないときの動き
パスを出したら、ボールをもらえる場所に走り込む。
タイミングをはかって、サークルの中に走り込む。

思①

- ◇得点につながる動きのポイントを友達にも教えてあげよう。
- ◆上手な友達の動きを見ながら、先生と一緒に考えてみよう。

☆動きがわからない子には、教師が直接コートに入って一緒に動く。
☆パスを出したら、すぐに相手陣地に走り込み、ボールを要求するよう助言する。

☆コートを広く使い、双方のサークルにシュートできるよう助言する。

技②

- ◇ボールをもらえる場所を見付け、素早く走り込もう。
タイミングよく相手サークルの中に走り込もう。
- ◆相手のいない場所に走り込もう。

☆チームごとに出てきた簡単な攻め方を紹介し、次時のめあてを確認する。

ねらい② チームで簡単な攻め方を選びながらゲームを楽しもう。

3 チームで簡単な攻め方について選ぶ。

思②

- ◇攻め方についていろいろな方法を考えてみよう。
- ◆二人が別のサークルの中に走り込むと相手が守りにくくなるかもね。

☆前時で紹介した簡単な攻め方を確認し、全員で相談しながら選ぶようにする。

4 ゲームを2試合行う。

☆サークルの後ろを使うと得点しやすいことを助言する。

☆判断を助けるために声かけを進んで行うよう助言する。

☆工夫されている攻め方については、振り返りの時間に紹介し、全体に広げていく。

5 本時の振り返りをする。

学習のまとめ

- 規則を守り、進んでゲームに取り組みながら、素直に勝敗を認めることができたか。
- 得点につながる動き方を考えたり、簡単な攻め方を知り、チームで攻め方を選んだりできたか。
- 基本的なボール操作やボールを持たないときの動きが向上したか。

【思①】パスを出したら素早くボールをもらえる場所に走り込むなどといった得点につながる動きを考えている。(4/7)	【思②】簡単な攻め方を知り、チームで相談しながら選んでいる。(6・7/7)
【技②】パスを出したら、ボールをもらえる場所に走り込むことができる。 タイミングをはかってサークルの中に走り込むことができる。(5/7)	

